

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501720		
法人名	株式会社メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム白ゆり青葉		
所在地	札幌市厚別区青葉町6丁目1-29		
自己評価作成日	平成22年7月16日	評価結果市町村受理日	平成22年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チーム、主任、管理者と相談、意見しあえる信頼関係が出来ている。またチーム一丸となって経験の有無に関わらず互いの意見を尊重しながら入居者様を尊重したケアを導き出し一つ一つ取り組んでいる。・職員一人ひとりが自信を持ち生き生きとケアに当たっている。・食事が楽しく無理なく摂取できるよう工夫している。・職員の連携を大切にしており、スムーズに取れることで、入居者様の時間の流れが穏やかになると理解し進めている。・入居者様に馴染みある獅子舞を職員のアイデアから青葉獅子舞保存会を結成、演舞を季節行事で楽しんでいる。今後はそれらを地域に還元していきたい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigyoshoBasicPub.do">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigyoshoBasicPub.do</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年8月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調剤薬局である母体組織は、地域とともに高齢者を支えることで地域に貢献したいという想いから平成14年に厚別区青葉町に当事業所を開設された。鉄筋コンクリート3階建ての建物を活用し3ユニットで2・3階の浴室の他、1階には広い浴場があり、利用者の身体の状況に合わせて安全に入浴できるようフット浴が設置されている。法人の特性を活かし介護職員への薬の研修や薬剤師からの相談に応えるなどの取り組みとともに看護職員と協力しながら日常的な健康管理にも力を入れている。事業所では職員同士の連携を重視し、事業所理念と年度目標を念頭に置きながら日々の支援にあたっている。毎日の経過記録がそのまま利用者の心と体の軌跡を追えるように配慮された記録様式を利用者ごとに検討するなど、利用者一人ひとりに寄り添ったケアをどのように実践していくかについて活発な意見が交わされている。また、このような職員の意見が運営やケア計画に反映されることや食事委員の活動など職員の得意分野でリーダーシップを発揮してもらうなど、職員の意欲や幅広い知識の向上につながっている。事業所は、利用者と家族や地域などのつながりを大切にしており、家族に対しては事業所から積極的に利用者の状況を伝え、意向を引き出し利用者との絆を深める一助となるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見交換、運営推進会議、家族アンケート、地域会議、外部評価等からのアドバイスを参考にしながら、理念を振り返る機会を作っている。朝礼やユニットの申し送り等で復唱し理念とその日の実践が繋がるよう取り組んでいる。ホームの理念は入社時研修で各自説明を受けている。今後も理念をかかげただけで終わらないよう実際に活かされてこそ意味があるものと管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合い、実践が理念にもとづいたものになるよう日常的に取り組んでいく。	職員や家族など利用者を支える様々な立場からの意見を集約し理念を策定している。掲示や毎日の唱和の機会を通じて、理念を反映したケアを実践できるように常に心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板や案内、また町内の会合に出席することで情報交換を行っている。町内会の行事、地域の事業所の行事や盆踊り等へ毎年参加することで、交流の機会になっている。また近郊在住の職員採用が多く、職員の繋がりがから増えた地域交流もある。小学校運動会見学、地域のいきいきサロンと児童会館合同「流しそうめん」への参加や森の音楽会、お花見、町内の花植え、児童の植算空手演舞訪問等、地域との社会参加の機会が増えている。となりのマンションの方々が草取り手伝って下さる中で交流が持た。こうした一つ一つの関わりを大事にこれからも繋げ進めていきたい。	事業所は地域の一員として貢献し、お互いに支えあう関係を目指している。利用者の暮らしが豊かで安心なものとなるように地域との交流の場を活用し自治会や学校行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の支援を第一に考えつつ、取り組みとして、厚別区社会福祉協議会主催の青葉地区住民に向けた「認知症対応講座」に劇団員や講師として、地域で認知症の方がより住みやすいための対応の仕方、認知症の方の想い、グループホームも相談窓口であること等をお伝えする機会をいただいている。今後も地域の他事業所や地域の方と情報交換、連携を図っていき、ホームからアナウンスして積極的に取り組んでいきたい。地域住民からの相談や問い合わせが増えていく。職員に通りがかりに聞くこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開くよう努めているがホームの状況から難しい月もあった。2ヶ月に一回開催されるよう努めていく。去年から、町内会長から、福祉部長や地域包括の職員さんも多数が参加していただいている。また経営者が出席できない時は報告し、出た意見を伝達し運営に役立てている。職員の意見も会議で言えるよう、できる限りソフト調整し参加している。	運営推進会議は5回実施し、利用者、家族、行政、運営者、職員などが参加し事業所の取り組みや外部評価結果、地域の状況を踏まえた防災等についての意見交換を活発に行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が主体となって、札幌市、区担当者、区保健師さん、社会福祉協議会等と電話や行き来して、随時相談、情報交換し、向上に取り組んでいる。生活保護受給者の方は区の担当者と連絡を取り合い連携を図っている。また、実施指導を通して、センター方式やケアプランを見てもらっている。区の生活保護課担当者との連絡の中で疎遠になっていた入居者様のご家族と連絡が取れるようになった例もあり、今後も連携を密にしていきたい。	事業所の状況を連絡し、連携を深めると共に、利用者の生活の向上のために各機関からの助言や協力を得ている。また、事業所からも行政の研修や行事への参加や協力を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が「身体拘束」について勉強会を開き、理解を深め、「絶対に行ってはならないこと」「介護者都合にしないこと」「言葉による拘束」等、又管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しており学んだ事を会議にて報告している。職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、拘束することでどのような弊害があるのか、事例やニュース等を材料に管理者から職員へ情報を伝えている。	身体拘束防止委員会を設置し、身体拘束について検討している。その内容を職員会議で伝達し、身体拘束の正しい知識を持ち日頃のケアに活かせるよう職員全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会が「高齢者虐待防止関連法」について勉強会を開き、理解を深め職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、ニュース等を材料に管理者や主任からその都度職員へ情報を伝えたり、職員のストレスについても抱え込まない、職場の雰囲気作り、組織作りを努めている。管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しその都度伝達講習をしている。本人の主体性を生かしたケアに取り組んでいるが、「言葉による拘束」や「不適切なケア」について深く勉強する機会を今後も作っていく。		

グループホーム 白ゆり青葉(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は職員が学ぶ必要性を感じ全体会議で学ぶ機会を作り、制度について事例と現入居者で利用の可能性のあるケースを伝達したり、職員が閲覧できるように、情報を各ユニットに設置している。また、必要時には制度が利用できるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談から入居準備、入居の流れの中で、また、契約時は読みあわせを行い具体的な説明をしている。その流れの中では理解しきれていないことも多いので、入居後も入居者様の変化やその場にあわせて適宜説明し、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して利用者が直接あわせる会議等は設けていないが、生活の中で、それらに関わる話題、要望等を聞き取りしたり、意見、不満が出た際も迅速に対応できる体制を整えている。事務所が開放されて、入居者が自由に出入りできるようになっていることや普段の関わりから、希望、不満、意見を表せている。経営側がホームに足を運び入居者の暮らしぶりや職員の雰囲気をごまかみで見ている。家族に対しては管理者、主任が主に窓口となっている。運営推進会議の場や面会、又は必要に応じて適宜連絡し、疑問や意見、不満等がないか汲み取り運営につなげている。また苦情になる前に対応するよう普段の関わりに配慮して、信頼関係作りを取り組んでいる。玄関に意見箱を設置。管理者やホームからアンケートを行いその結果を経営者、ご家族、職員にデータを報告している。今後も運営推進会議に参加したことのない家族に呼びかけたり、どうしたら、ご家族が意見しやすいか意見交換していく。普段の関わりを大切に相談、意見しやすい関係作りを努める。	意見箱を設置し、第三者や事業所の相談窓口を定めている。家族アンケートを定期的に実施し、寄せられた結果について事業所で検討し、今後の対応を含めた実施結果を公表している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には定期的及び適宜(主任や管理者の判断で)面談を行っている。運営者は職場環境の重要性を理解しており、働く職員の意欲の向上や質の確保のため、事業所の運営や大事な決定事項や社会情勢などを伝え、全体会議や日頃のかかわりから主任や職員からの意見を聞く機会を設けるようしている。職員からの意見は欠かせない。意見しやすい職場環境も大切と経営者、管理者、主任は取り組んでおり、ホームの経験、状況、職員の資質に合わせて、話し合いながらより良い職場作りに経営者が声を上げて進めている。日頃現場で拳がった意見は、主任が管理者に報告している。意見が反映可能かどうかを見極め、運営に役立っている。	理念に基づく事業所の方針を確立し、全員で共有しながら職員の自由な意見を取り入れている。管理者や主任は活発な意見を交換することで意欲的に働ける職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はその時のホームの状況等に合わせた話を、全体会議でしている。また、資格手当での整備、資格取得のために勤務調整や勉強会の開催、介護に関わる社会情勢等の情報を提供する等、段階的にスキルアップできるように慎重かつ臨機応変に体制を整え、働く職員を支援している。又、経営側がホームへ足を運び職員や入居者様へ話しかけ客観的に見て運営に役立っている。経営者がホームの行事にも参加し、入居者様一人ひとりに「感謝状」を送る役割で参加することで、入居者様に喜ばれている。管理者、主任は日頃から職員に話しかけたり、委員会や会議の場でも意見しやすい環境作りを配慮している。職員の親睦会や職員同士で贈り合う「サンクスカード」を推奨し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は地域密着型サービスの従業者として職員の要望を取り入れて社内研修を推奨し、事業所ごとあるいは合同研修等を織り交ぜ、研修計画を立て行っている。入社から年数、段階に応じた社内研修のカリキュラムを設定し、機会を作っている。また、新人職員へのOJT、OFF-JTに参加する機会を作っている。他の厚別区のGHと協働しての研修等も取り入れている。また、日頃から視点を養うためにセンター方式を使用したり、フロア会議等で専門的な知識が得られるよう、チーム、職員に合わせてアドバイスしている。経験、状況、職員の資質に合わせて、より良い職場作りに代表者、管理者、主任一体となって組織的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修・外部研修・厚別区GH合同研修等で意見交換、一緒に学ぶ機会を作っている。地域(青葉地区)の交流の機会として、近隣事業所の花見行事に参加させていただいたり、地域で行う認知症を学ぶ講座等に参加させていただき、研修にお互いお話しする等少しずつ地域に認識されると感じる。これからも協同して地域サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

グループホーム 白ゆり青葉(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は訪問調査のみならず、事前にホーム見学等の機会等インテークの段階から可能な範囲で、困り事、不安な事、求めている事をうかがい、管理者、計画作成担当者が入居前から関わり、フロア職員に情報伝達、入居後安心して生活できるよう話し合ったり、センター方式情報シート等を活用し知り得た情報をスタッフ間で共有している。入居以降も本人の言葉・仕草からの情報を記録に細やかに残し、申し送りつつ情報を共有しケアに活かしている。また入居時は不安が大きい事を職員全体が理解しており本人の訴えはどんな些細な事でも職員間で話し合い進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居後は特に家族は不安であり、それらや想い、願いを受け止め、事前予測や関わり方の方向性を検討し、必要に応じて介護計画に盛り込んでいる。話し合った内容、入居後の様子を家族に伝える事で家族の不安が少しでも軽減される事を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時には本人のみならず、家族関係等の状況についても可能な限り伺い、現状把握に努めている。またケアマネージャーや相談員との面会や電話・書面にて情報交換し、客観的な意見を聞きながら総合的に判断し、別なサービスの情報や提案等の対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で「介護する側・される側」とならぬよう、入居者様から教えられる、学ぶ機会をもち「持ちつ持たれつ」の関係を築けるよう配慮している。ご本人の意思を尊重し自発的な活動は見守り・サポート等で最後まで行えるよう満足感、達成感を大切に支援している。プラン更新月にはD-5シートを各職員で記入し、各自の関わり方を振り返り、共に生活する、本人から学ぶ視点等振り返る機会としている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	計画作成・担当者を中心に面会・便り・電話で近況報告。家族の事情や心境を都度配慮しつつ、家族の意向と本人の意向をすり合わせ、可能な限り行事参加・手伝いやケアのヒントやアイデア等を「共に考え、共に支える」協力的体制作りに取り組んでいる。職員と家族間でも、支援している、されているという一方的な縦の関係にならない様、面会時や月1回のお便り時のかかわり以外にも電話で近況報告や行事への参加・お手伝い等のホーム側からの働きかけを多くし、負担感なく参加しやすい環境作りを努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的に手紙や電話での交流等自由に行っている。入居者の状況に合わせて、関係を取り戻せるような働きかけ(手紙、電話、担当者アプローチ等)ご家族や馴染みの方達と情報交換を行い取り組んでいる。	利用者の希望に合わせて馴染みの美容室などを利用したり、来訪者を迎えたりしている。手紙や電話も含め、関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考慮した席の見直し、関係を把握し関わり調整をしている。職員が車椅子を押す姿、他者がバギー歩行する姿から「手伝いしてあげたい」と自発的に手伝う場面を大切にしたり、入院者、体調不良者の様子を心配する気持ちを大切にできるように暮らすもの同士がお互いに励まし支えあえる場面を大切にしている。他フロアへ訪問、外気浴等でのなじみの関係作りを努め入居者様の可能性を引き出せる機会作りを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご本人、ご家族へは終了時に説明や言葉かけをしている。今までのものが次の介護者に活かされる様ホームで得た情報書類をご家族に提供している。協力病院に入院して退去された場合、お見舞いに行き等関わりを持つようになっている。退去された方のご家族の紹介で入居された方もいる。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の情報やご家族、ご本人との日常会話から情報収集し記録に残し共有している。また入居者様の担当制を設けより細やかに思いや意向の把握ができる体制をとり、秘めている思いの発露からさらに満足感を持つ暮らしの実現に向け尽力している。自己主張や表現が乏しくても、表情や仕草、さりげない会話の中で想いを汲み取り、本人の視点に立つことで努め、ケア提供時における考察等も記録に反映し、スタッフ間で意見し、より入居者の立場にたったケアプラン立案に反映している。	職員はセンター方式のアセスメントや経過記録に利用者の「言葉」を盛り込んでいる。会議等で取り上げ、担当職員を含め全員で利用者一人ひとりの思いを共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のサービス提供関係者やご家族の協力を得て、又ご本人との日常会話から、今までの生活で大切にしていたものを汲み取るよう情報収集し、生活に活かせる様にしている。入居前の状況や家族関係、暮らしぶりから個人の情報にばらつきはあるが、センター方式情報シートを用い、毎年1回の更新、その他にも大切と思う情報は、都度シートへ反映している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員、看護師が共同して心身の状態の変化に迅速に対応できるようまた、総合的に判断できるよう、口頭伝達だけでなく記録、連絡帳、温度版を用いて一人一人24時間をおった現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報についてスタッフや本人、ご家族と話し合い、記録等の情報をあわせ、介護計画を作成している。介護計画作成には計画作成担当者、担当を中心にセンター方式を活用し、関わる全員の意見をすり合わせながら、モニタリング会議・評価・アセスメントを行っている。スタッフが視点を養うため立案に関わったり、社内研修等で学ぶ機会を設け、チームだからできるその人らしいケアプランの作成に役立っている。計画作成担当者は介護支援専門員に日常的に相談、助言しやすい関係にある。	定期的なアセスメントと細やかなモニタリングができるよう工夫された経過記録を活用し、職員全員でかかわりながら利用者と家族の意向に沿った計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や書式は個々に即した書式を作成し活用し、状況に応じてその都度変更している。実践(介護)記録に気づき、予測、考察を記入し介護経過としてポイントを取りまとめモニタリングや評価に活用している。また入居者様の言葉、表情、サインが具体的に掛かれるよう担当者や計画作成担当者からアプローチすることで、より表現豊かな記録に繋がるよう今後も取り組んでいきたい。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や意向は固定したものではなく常に変化すると念頭におき、その時々本人と家族の状況や要望と向き合い暮らしを守るために、その場面場面で既存のサービスに捉われない柔軟なケアを心掛けている。また、地域の事業者と連携を図り、在宅で暮らす方の協力が出来ないかどうか、可能な範囲で話し合ったり、行事にお誘いしたりしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉部長・区役所の方を通じて歌ボランティアさんが訪問して下さったり、地域の野球少年団が行う廃品回収への協力、児童会館のハロウィン仮装訪問では、地域担当の警察官も同行訪問していただき地域の様々な機関との双方で協力が進んできている。また地域の少年消防クラブ員がクリスマスに訪問、極真空手の子供たちが演舞披露訪問、生活を潤して下さっている。また、過去に職員だった方がエステや清掃、ゴミ捨て等のボランティアに訪問して下さっている。地域のサービス事業者や一部の入居者の担当だったケアマネ、生活支援員とつながりを持ち、お誘いを受け、流し素麺やお花見や音楽会等の企画に参加したりと心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である聖隷ホスピタルの担当看護師が窓口になり、入居者の状況を把握し、入居者の中には看護師さんと顔なじみの信頼関係が出来ている方もいる。受診時も入居者の体調等を配慮して下さったりと、気軽に相談できる関係を築いている。また、入居者、家族が納得できるように場合によっては家族に直接往診や、受診にかかわっていただくこともある。入居者の希望に併せており、継続して馴染みの医師にかかれる様、家族と協力して行っている。	かかりつけ医の受診の際には、職員や事業所の看護師が日常の様子をまとめ、家族や医師に状況を伝えたり、診察結果を協力医療機関に伝えている。		

グループホーム 白ゆり青葉(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師は医療面に限らず入居者の生活全般とその人らしさを含めた理解に努め意見交換しやすく、入居者とも信頼関係が出来ており安心に繋がっている。協力医療機関は外来看護師を窓口を受診時も体調等を考慮し、ホームの理解に努めて下さり関係が築かれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院は入居者にとって精神的、肉体的に大きなダメージとなる。早期から可能な限り介入し、病院関係者、本人、家族と充分話し合い進めている。入院した際にはなじみの職員が面会に出向いたり、家族に同意頂いた方は、ムンテラに同席させてもらい、家族、病院、ホームの方向性を合わせて、早期退院に向けたアプローチを個別に行っている。また現場職員へ情報伝達し退院時からの取り組みを話し合い、退院してきても統一したケアと細やかな観察が出来るよう、医療や家族と連携強化し状態回復に取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針について重要事項説明書に明記し契約前や必要に応じてホームの考え方を伝え理解していただいている。重度化・終末期についてのホーム、かかりつけ医、ご家族が話し合いの場を持ち、入居者様やご家族の意向、またホームで想定できる可能な限りの介護、関係医療機関との連携等を相互に確認し支援している。入居者様やご家族は出来る限り最後まで馴染みの場所を過ごしたいことを含め、チームとして「できること、できないこと」を一つ一つ見極め、確かめ合いながら、本人を取り巻く(チーム全体がそれぞれの役割を理解して、チームが戸惑うことのないよう終末期をよりよく支えられるよう話し合っ支援している。	入居時に事業所の重度化や看取りに関する説明を行い利用者や家族の同意を得ている。現在事業所として更に具体的な方針や関係機関との連携を含めた検討を行っている。	重度化や看取りについて、利用者と家族の意向は状況や時々に応じて変化することもあり、事業所としてどのような対応が可能かなどを伝え、変化する意向を時々で捉え、共有できる話し合いの機会が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ひやりはと、事故報告書等を周知徹底カンファレンスホーム全体で開催している。また、社内研修や厚別区合同研修等で救命救急講習・緊急時対応研修を行い、統一マニュアルで採用時や毎年研修に取り入れている。入居者様の急変時に適切な判断対応ができるよう個々の知識も向上しているが、職員も時間が経つと不安になりやすいため、今後も定期的に研修を取り入れ、継続して行く予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一人一人の利用者の状態を踏まえた防災避難訓練(夜間想定)年2回行っている。又、職員だけの誘導の限界を踏まえて地域のみなさんの協力を得られるよう地域防災会議参加し、地域の方から協力を得られるよう進めている。又、事故対策委員が予防と発生でのフローチャートを作成し全職員に周知している。地震想定訓練、SATI19-災害用の備蓄用意。事例から全体会議や運営推進会議で考える機会設けている。	夜間を想定した非難訓練を年2回実施している。ユニットごとに非常時のシミュレーションを行ったり、地域の防災マップに取り上げてもらう等の取り組みを行っている。	年内にスプリンクラーの設置予定であり、避難経路を確保するための消火剤を新たに備えるなどの取り組みを行っている。今後も継続して地域への働きかけを行い更なる安全への取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いについては採用時・研修・マニュアル等で職員が意識し、情報・書類の管理・関わり方に表れている。また一人ひとりの生活の細かい場面において、プライバシーや尊厳の確保に配慮するよう言葉かけや対応をカンファレンスや会議等で話し合い、他入居者から指摘されないよう言葉の配慮を心掛けている。	入職時と定期的な研修を行い、尊厳や個人情報保護について学んでいる。会議でも事例を用い話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	沢の機会は生活において楽しみ、喜びの機会であり、大切であることをチーム全員が理解し、好みの味・主食の選択・洋服の選択の機会等を提供している。言葉で表現できない時も周囲の雰囲気察しており、必ず本人に意向を聞くことを心がけ、本人の希望を理解することで互いに喜び合えたり、ゆっくり待つことで表現できる場合もある。言葉ないサインを汲み取り、そのことを言葉で返して反応を見て選択の機会としている方もいる。今後も選択の場を大切に働きかけていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時のご本人のペースや希望、個人の趣味や嗜好、習慣に合わせた生活時間が送れるよう工夫している。どうしてもその時思いに伝えられない場合はご本人と話し合いその日で可能な状況を検討し実施している。入居者様のペースを尊重するためには職員自身の心にゆとりが大切と考え、ゆとりを生み出せるチーム作り、自分作りを今後も進めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日明日の洋服選びを一緒に行ったり、その日の気分に合わせて指輪、ネックレス、ブローチ、スカーフといった装飾品をご本人の以前の好みや思いを伺いその時々思い出選んでいただいている。訪問美容を利用される場合は職員がご本人様とヘアスタイルについての要望を一緒に説明し満足できるように支援している。		

グループホーム 白ゆり青葉(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から料理の本やチラシから話題提供したり、盛り付け、調理、米とぎ等ご本人のその日の状況や思いにあわせてお手伝いしている。まとめる→下膳→食器洗い→片付け等個々の状態に合わせて出来ることを行っている。また、食事前から献立の話題、相談、味見等食事に対する意識を高めたり、介助中も料理名材料名を伝え食事に楽しく集中できるように関わりやその人のペースに合わせた食事が出来る様環境整備に努めている。	食事委員会を設け高齢者の特性や個別の疾病に配慮したカロリーや水分量の献立を検討している。ユニットごとに利用者の好みが反映した食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量についてのチェックを行うことで入居者様の健康管理に役立っている。疾病に合わせた献立、調理やその時の摂取状態に合わせて形態を変え提供している。食事量、水分量を確保できるように食に関する習慣や生活歴、嗜好品、栄養補助食品等を用いながら、又食欲が維持向上する働きかけ方をチームで情報共有し取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	一人ひとりの状態に応じ促しや確認、介助の支援を行っている。必要時歯科往診を受け、職員も付き添い歯磨き指導や本人に合わせた口腔ケアの仕方を助言頂いている。口腔ケアについての研修を受ける機会もあり、必要な知識を身につけることが出来ている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は最低限にしている。必要に応じカンパレンスを行い種類や使用方法を変更したり、排泄チェック表でパターンを把握、その日の生活時間や状況・精神状態、個々のサインやリズムに合わせて判断し、さりげない言葉かけ、誘導をするよう配慮している。排泄の失敗や人に手伝って貰うことでの落ち込み、オムツ使用での羞恥心やストレスを考え細心の注意を払ってケアに当たっている。	自尊心に配慮しながら、オムツを使用している場合でもトイレで排泄できるよう、利用者の排泄リズムを把握し、さりげない誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立時には食物繊維の多い食材の使用を心がけている。また排便確認をプライバシーに考慮しつつ行い記録し定期的に排便確認している。又、便秘がちな高齢者に対し個々の便秘の原因をさぐり薬剤に頼る前に食物繊維や乳酸菌を豊富に含んだ食材の工夫をメニューに取り入れている。また、腸運動を助けるために温タオルや腹部マッサージ、排便のサインを見逃さないよう気をつけ、気持ちの良い排便支援に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能な状態であり、希望に合わせて入浴していただいている。入浴日には事前に希望の時間帯をうかがいその時間に入れるよう調節している。季節に合わせて、桜の花を浮かべたり菖蒲湯やゆず湯、入浴が楽しみとなるような話題の提供、雰囲気作りにも努めている。また自室の層に入浴予定を記載することで楽しみにされている。身体面の重度化でリフト浴を実施する際には、不安や恐怖とならぬよう、2人介助で安心を第一に提供している。体調に不安のある入居者様も多く職員に負担をかけたくない思いから入浴をお断りすることもあるため、入浴の声かけをするときはまず本人の不安を理解し配慮した声かけ、納得した上で職員連携を図り入浴気分を高めて楽しい入浴となるよう取り組んでいる。	身体状況に合わせ安全な入浴を行っている。楽しく入浴できるようゆず湯など季節感も取り入れている。拒否がある場合は生活歴などから理由を探るなど個別の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣に合わせた就寝時間となるよう配慮している。TVや読書等好きに過ごしてリラックスしている。また、夜を認識出来る様光や音の調節、不眠時には暖かい飲み物、補食などを提供しながら、必要に応じて思いを傾聴したり、添い寝、安心して休めるような関わりを心がけている。必要な方には医師や看護師に本人のリズムに合った薬の調整を相談している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導をうけて薬剤についての知識等について2週間に1回相談をおこなっている。また職員は薬性目を通し内容の確認、内服変更時はその詳細について記録し変化がないか期間を区切って評価相談している。内服方法もオアートを使用したり薬はいの使用、簡易感濁法を用いたり一人ひとりに合わせた方法をとっている。又、ムセ等に留意しご本人が安全に飲み込めるまでさりげなく見守る等一人ひとりに合わせた方法をとっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や生活歴にあわせた家事活動、趣味活動を行っている。入居期間も長くなり、また疾病による心身機能低下が目立ってきている現状もあり日々の心身状況にあわせ楽しみごとや活動、市晴らする場面を提供している。			

グループホーム 白ゆり青葉(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は気分転換や季節を感じるだけではなく、心身にとって大切な機会である。ご近所への散歩や小学校訪問、回覧板届け、花の手入れ、花摘み、ホーム前のベンチで日光浴やティータイムを楽しむご近所さまとの交流へ繋がる貴重な場面もある。その日時々に応じて職員間で相談し連携を取り合い提供している。	外出行事の他、気分転換や健康増進など、外出支援の大切さを理解し、職員が協力してその日の希望を当日のうちに叶えられるよう個別対応に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望にあわせ個人で現金を所持している方もいる。お金を管理することで確認し自分を保つことが出来ている方、要望がある時はお菓子や必要なものを出したり、ホームにある自動販売機や出入りする業者からの購入を楽しみにする方がいる。必要な方にはお小遣い帳をつけ職員で所持金を確認する支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に居室で電話を設置したり、ホームの電話を使って家族との交流を自由に楽しんでいる。また家族への年賀状や年中見舞いをだしたり、家族の手紙を職員が代行してその都度ご本人に読み聞かせ文通を楽しんでいる方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが独身寮増改築型のため生活感としては欠ける部分はあるが季節の飾り付けや花や写真、好む音楽や雑誌、人形や置物等を置いたり、その都度、音と光の量、心地よい温度を考え、不安や混乱がないよう配慮しながら、一人ひとりにとって居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	利用者一人ひとりの状態に合わせて混乱を起こさないように配慮されている。浴室の改造や家族の意向を受けて台所の一部改良を行うなど、こまめに見直しを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫を	リビングの食卓以外に少し離れたソファで過ごしたり、和室で寝転んだり、台所で静かに過ごしたりと可能な限りのスペースを利用して、思い思いに過ごせる空間作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族やご本人へ説明を行い、使い慣れたタンスや道具、仏壇を持参している方もいる。また、生活する中で目を楽しませることが出来る様思い出の写真や掲示し、ご自分の部屋がそれぞれのくつろげる空間となるよう支援している。	思い思いの家具や写真などを利用し、使いやすさ安全に配慮したその人らしさを大切にした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる場所へ手すり、スロープ、目印等をつけ、分かる力に働きかけるよう促し働きかけている。また、壁や戸、手すりの角等に保護パッドをつけ、安全を確保しご本人が出来るだけ自由に異動が出来る様配慮している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501720		
法人名	株式会社メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム白ゆり青葉		
所在地	札幌市厚別区青葉町6丁目1-29		
自己評価作成日	平成22年7月16日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったり 笑顔で 楽しく をモットーに、入居者様の家族や大切な人とのつながりを大切に、一人一人が笑顔で楽しく暮らせる様 又、生きる喜びを感じ 明日への希望が持てる様、職員全員が利用者主体に人生の大先輩として尊敬の気持ちを持ち、時には人生相談をしアドバイスを受ける等、支援している立場に立つのではなく一緒に生活する者として接する様チーム全員で取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigyoshoBasicPnb.do">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigyoshoBasicPnb.do</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見交換、運営推進会議、家族アンケート、地域会議、外部評価等からのアドバイスを参考にしながら、理念を振り返る機会を作っている。朝礼やユニットの申し送り等で復唱し理念とその日の実践が繋がるよう取り組んでいる。ホームの理念は入社研修で各自説明を受けている。今後も理念をかかげただけで終わらないよう実際に活かされてこそ意味があるものと管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合い、実践が理念にもとづいたものになるよう日常的に取り組んでいく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板や案内、また町内の会合に出席することで情報交換を行っている。町内会の行事、地域の事業所の行事や盆踊り等へ毎年参加することで、交流の機会になっている。また近郊在住の職員採用が多く、職員の繋がりがから増えた地域交流もある。小学校運動会見学、地域のいきいきサロンと児童館合同「流しそうめん」への参加や森の音楽会、お花見、町内の花植え、児童の極真空手演舞訪問等、地域との社会参加の機会が増えている。となりのマンションの方々が草取り手伝って下さる中で交流が持てた。こうした一つ一つの関わりを大事にこれからも繋げ進めていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の支援を第一に考えつつ、取り組みとして、厚別区社会福祉協議会主催の青葉地区住民に向けた「認知症対応講座」に劇団員や講師として、地域で認知症の方がより住みやすいための対応の仕方、認知症の方の想い、グループホームも相談窓口であること等をお伝えする機会をいただいている。今後も地域の他事業所や地域の方と情報交換、連携を図っていき、ホームからアナウンスして積極的に取り組んでいきたい。地域住民からの相談や問い合わせ増えている。職員に通りすがりに聞くこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開くよう努めているがホームの状況から難しい月もあった。2ヶ月に一回開催行えるよう努めていく。去年から、町内会長から、福祉部長や地域包括の職員さんも多数が参加していただいている。また経営者が出席できない時は報告し、出た意見を伝達し運営に役立っている。職員の意見も会議で言えるよう、できる限りシフト調整し参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が主体となって、札幌市、区担当者、区保健師さん、社会福祉協議会等と電話や行き来して、随時相談、情報交換し、向上に取り組んでいる。生活保護受給者の方は区の担当者と連絡を取り合い連携を図っている。また、実施指導を通して、センター方式やケアプランを見てもらっている。区の生活保護課担当者との連絡の中で疎遠になっていた入居者様のご家族と連絡が取れるようになった例もあり、今後も連携を密にしていきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会で「身体拘束」について勉強会を開き、理解を深め、「絶対に行ってはならないこと」「介護者都合にしないこと」「言葉による拘束」等、又管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しており学んだ事を会議にて報告している。職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、拘束することでどのような弊害があるのか、事例やニュース等を材料に管理者から職員へ情報を伝えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会で「高齢者虐待防止関連法」について勉強会を開き、理解を深め職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、ニュース等を材料に管理者や主任からその都度職員へ情報を伝えたり、職員のストレスについても抱え込まない、職場の雰囲気作り、組織作りを努めている。管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しその都度伝達講習をしている。本人の主体性を生かしたケアに取り組んでいるが、「言葉による拘束」や「不適切なケア」について深く勉強する機会を今後も作っていく。		

グループホーム 白ゆり青葉(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は職員が学ぶ必要性を感じ全体会議で学ぶ機会を作り、制度について事例と現入居者で利用の可能性のあるケースを伝達したり、職員が閲覧できるように、情報を各ユニットに設置している。また、必要時には制度が利用できるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談から入居準備、入居の流れの中で、また、契約時は読みあわせを行い具体的な説明をしている。その流れの中では理解しきれていないことも多いので、入居後も入居者様の変化やその場にあわせて適宜説明し、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して利用者が直接あわせる会議等は設けていないが、生活の中で、それらに関わる話題、要望等を聞き取りたり、意見、不満が出た際も迅速に対応できる体制を整えている。事務所が開放されて、入居者が自由に入居りできるようになっていることや普段の関わりから、希望、不満、意見を表せている。経営側がホームに足を運び入居者の暮らしぶりや職員の雰囲気をごまめに見ていっている。家族に対しては管理者、主任が主に窓口となっている。運営推進会議の場や面会、又は必要に応じて適宜連絡し、疑問や意見、不満等がないか汲み取り運営につなげている。また苦情になる前に対応するよう普段の関わりで配慮して、信頼関係作りに取り組んでいる。玄関に意見箱を設置。管理者やホームからアンケートを行いその結果を経営者、ご家族、職員にデータを報告している。今後も運営推進会議に参加したことのない家族に呼びかけたり、どうしたら、ご家族が意見しやすいか意見交換していく。普段の関わりを大切に相談、意見しやすい関係作りを努める。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には定期的及び適宜(主任や管理者の判断で)面談を行っている。運営者は職場環境の重要性を理解しており、働く職員の意欲の向上や質の確保のため、事業所の運営や大事な決定事項や社会情勢などを伝え、全体会議や日頃のかかわりから主任や職員からの意見を聞く機会を設けるようにしている。職員からの意見は欠かせない。意見しやすい職場環境も大切と経営者、管理者、主任は取り組んでおり、ホームの経験、状況、職員の資質に合わせて、話し合いながらより良い職場作り経営者が声を上げて進めている。日頃現場で拳がった意見は、主任が管理者に報告している。意見が反映可能かどうかを見極め、運営に役立っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はその時のホームの状況等に合わせた話を、全体会議でしている。また、資格手当での整備、資格取得のために勤務調整や勉強会の開催、介護に関わる社会情勢等の情報を提供する等、段階的にスキルアップできるように慎重かつ臨機応変に体制を整え、働く職員を支援している。又、経営側がホームへ足を運び職員や入居者様へ話しかけ客観的に見て運営に役立っている。経営者がホームの行事にも参加し、入居者様一人ひとりに「感謝状」を送る役割で参加することで、入居者様にも喜ばれている。管理者、主任は日頃から職員に話しかけたり、委員会や会議の場でも意見しやすい環境作りで配慮している。職員の親睦会や職員同士で贈り合う「サンクスカード」を推奨し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は地域密着型サービスの従業者として職員の要望を取り入れて社内研修を推奨し、事業所ごとあるいは合同研修等を織り交ぜ、研修計画を立て行っている。入社から年数、段階に応じた社内研修のカリキュラムを設定し、機会を作っている。また、新人職員へのOJT、OFF-JTに参加する機会を作っている。他の厚別区のGHと協働しての研修等も取り入れている。また、日頃から視点を養うためにセンター方式を使用したり、フロア会議等で専門的な知識が得られるよう、チーム、職員に合わせてアドバイスしている。経験、状況、職員の資質に合わせて、より良い職場作り代表者、管理者、主任一体となって組織的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修・外部研修・厚別区GH合同研修等で意見交換、一緒に学ぶ機会を作っている。地域(青葉地区)の交流の機会として、近隣事業所の花見行事に参加させていただいたり、地域で行う認知症を学ぶ講座等に参加させていただき、研修にお互いお話しする等少しずつ地域に認識されると感じる。これからも協同して地域サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

グループホーム 白ゆり青葉(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は訪問調査のみならず、事前にホーム見学や相談の機会も可能な範囲で設け、困り事、不安な事、求めている事をうかがい、出来る限り管理者、計画作成担当者が入居前から関わり、センター方式情報シート等を活用し知り得た情報をスタッフ間で共有し、入居以降も本人の言葉や仕草からの情報を記録に細やかに残し、申し送りつつ情報を共有しケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談以降も入居前までの間のホーム見学や相談を随時受け付け、不安点についてお話を伺うなどしている。管理者、計画作成担当者との情報の共有を図り、必要に応じて介護計画に盛り込んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時には本人のみならず、家族関係等の状況についても可能な限り伺い、現状把握に努めている。またケアマネジャーや相談員との面会や電話・書面にて情報交換し、客観的な意見を聞きながら総合的に判断し、別なサービスの情報や提案等の対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係にならないよう一方的な縦の関係を脱し、人として共に過ごし支えあう関係を築くよう喜怒哀楽も受け入れ孤独にならぬ利用者への安心と安定を生み出し本来の個性や力、どのように暮らしていきたいのか意向を汲み取れるような関わりを心掛けている。日常のさりげない会話の中で料理の味付けや子育ての相談等、長く生き抜いてきた人生の先輩としてアドバイスを受けたり役割を担い活き活きとされている様を共感し日々教えられる事に感謝の気持ちを表現し支えあう関係を維持している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族間でも、支援している、されているという一方的な縦の関係にならない様、面会時や月1回のお便り時のかわり以外にも電話で近況報告や行事への参加・お手伝い等のホーム側からの働きかけを多くし、負担がかからない程度に共に支えあうホーム作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう努めている。ある利用者は昔の同僚との通信を継続しており大切な人との交流を図り続けられるよう立案し支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を考慮し居間の席を決めたり、活動時間をコントロールしている。職員は利用者同士が共に支えあって暮らしていく事の大切さを理解し利用者間の関係の理解に努め利用者が孤立せず共に暮らしを楽しめるよう支援していく事を心掛けている。		

グループホーム 白ゆり青葉(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が完了したご家族へは説明や言葉かけをしている。協力病院に入院して退去された場合、お見舞いに行く等関わりを持つようになっている。退去された方のFaの紹介で入居された方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや希望、意向等の把握に努めている。認知症でも自己主張が乏しくても、表情や仕草、さりげない会話の中で想いを汲み取り、本人の視点にたちスタッフ間で意見を出し合い取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安らかに有する力を発揮しながら自分らしく暮らして行ける様、支援するために利用者個々の歴史やサービス利用に至った経過を本人や家族を通じ把握に努めている。又、毎年更新しているアセスメントツール(センター方式)情報シートを用い更なる情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の部分的な問題や断片的な情報に捕われずに、一人一人の1日の暮らしの流れに沿って本人の状況を看護師とも積極的に連携を取り総合的に把握できるよう心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護する側にとっての課題ではなく本人がよりよく暮らすためのケアのあり方について家族や本人の意向を第一に、スタッフ全員で着目点の統一を回り日々の記録に落としケース担当者が経過表にピックアップしフロア会議にてモニタリング会議を繰り返し更新月にはサービス担当者会議を開催しプランナーをつつを評価し新しい課題も含めアセスメントし課題分析を行い、介護支援専門員の適切な監理のもと、職員全員の意見やアイデアを反映しつつ時に家族へインフォームドコンセントをし現状の把握を共有し改めて家族の意向を確認した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は入居者一人ひとりに適した書式を作成し活用、書式についても状況に即し変更している。日々の記録は、やった事を記すだけにならないよう本人を身近で支える職員しか知り得ない事実やケアの気づき生き生きと具体的に記録するよう心掛け個別介護記録へ記録し一定時期で介護経過として取りまとめモニタリングや評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や意向は固定したものではなく常に変化すると念頭におき、その時々本人と家族の状況や要望と向き合い暮らしを守るために、その場面場面で既存のサービスに捉われない柔軟なケアを心掛けている。また、地域の事業者と連携を図り、在宅で暮らす方の協力が出来ないかどうか、可能な範囲で話し合ったり、行事にお誘いしたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉部長・区役所の方を通じて歌ボランティアさんが訪問して下さったり、地域の野球少年団が行う廃品回収へ協力したり、職員を通じて向かいの小学校の生徒がよきこいの語りを披露しに訪問、児童会館からはハロウィン仮装訪問を招き、その際は地域担当の警察官も同行訪問していただき地域の様々な機関との双方で協力が増えてきている。また地域の少年消防クラブ員がクリスマスに訪問して下さる等、生活を潤して下さっている。また、過去に職員だった方が月に2・3回 エステ等のボランティアに訪問して下さっている。地域のサービス事業者や一部の入居者の担当だったケアマネ、生活支援員とつながりを持ち、お誘いを受け、流し煮やお花見等の企画に参加したりと心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である聖隷ホスピタルの担当看護師が窓口になり、入居者の状況を把握し、入居者の中には看護師さんと顔なじみの信頼関係が出来ている方もいる。受診時に入居者の体調等を配慮してくださったりと、気軽に相談できる関係を築いている。また、入居者、家族が納得できるように場合によっては家族に直接往診や、受診にかかわっていただくこともある。入居者の希望に併せており、継続して馴染みの医師にかかれる様、家族と協力して行っている。又、KSデンタルクリニックの歯科医師や衛生士とも顔なじみになってきており気軽に相談できる関係を構築している。		

グループホーム 白ゆり青葉(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2年前よりホーム専属の看護職員を確保しており、顔なじみの、よく知る看護師と気軽に相談しながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	リロケーションダメージを考え本人のストレスや負担を軽減する為、短期間に入院目的を達成しスムーズに退院できるよう病院関係者、本人、家族と充分話し合っており入院した際には職員が面会に出向いたり、家族に同意頂いた方は、ムンテラに同席させてもらい、家族、病院、ホームの方向性を合わせて、退院に向けたアプローチを個別に行っている。また現場職員へ情報伝達し退院時からの取り組みを話し合い、退院してきても統一したケアと細やかな観察が出来るよう、医療や家族と連携強化に取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期のあり方について【看取りケアと重度化対応マニュアルGH編】という本を職員全員が熟読し定期的に会議等で話し合っている。又、認知症の進行状況と身体状況・予測される合併症・グループホームでの可能な対応・本人の意向・看取り希望場所・家族の終末期に対する希望等を把握し関係医療機関との連携を相互に確認し共有し、重度や終末期の利用者に対して安心と安全を確保し、よりよく暮らす為に対応が可能な事、困難な事、不安な事等を職員全体で率直に話し合い事業所として「できること・できないこと」を一つ一つ見極めて行っている。また、医療機関の協力もその都度確認しながら、本人を取り巻くチーム全体がそれぞれの役割を確認し理解して、チームが戸惑うことのないよう、その人の終末期をよりよく支えられるよう話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状況の急変や事故発生時にも慌てずに確実かつ適切な行動がとれるよう職員全員が応急手当について定期的に研修を行い実際の現場で活かせる技術を身に付けている。社内研修や厚別区GHで協同して、救命救急講習を研修に取り入れている。また、グループホームで起き易い急変、事故発生時を具体的にシミュレーションした「緊急時の対応」の研修も独自に行っている。職員も時間が経つと不安になりやすいため、今後も定期的に研修を取り入れ、継続して行く予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一人一人の利用者の状態を踏まえて昼夜(特に夜間)を想定した避難訓練を行い、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう年に2回以上行っている。又、職員だけの誘導の限界を踏まえて地域の人々の協力を得られるよう地域の防災委員となり働きかけている。又、事故対策委員が予防と発生でのフローチャートを作成し全職員に周知している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇り、人格を尊重しプライバシーの確保を徹底している。利用者の尊厳と権利を守るのとは基本と全スタッフ考えプライバシーを守り尊厳のある生活支援を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	加齢や認知症の進行に伴い判断能力や希望を表現する力が次第に低下し、言葉にできない感情や、うずもれてしまいがちな本人の決める力やその人らしい希望や願いを表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら本人の希望や好みを把握しようとし掛け、自己決定を行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の24時間の状態を把握し、その日の状態や希望にあわせた生活時間が送れるよう工夫している。またどうしても思いに答えられないときはご本人と話し合いを行いその日で可能な状況を検討し実施、体制上の変更が必要であれば、話し合いをもち全体の体制として再検討。今後もより希望に添えるよう、一人一人のペースを大事にし、更なる工夫改善を行っていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみ・おしゃれを都度季節にあった洋服を、自己決定を基に一緒選ぶ等個別に支援している。又、理容、美容はなじみの訪問理美容で個性、希望、生活歴に応じ自己決定を元にカットされている。		

グループホーム 白ゆり青葉(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように献立作り、味見やもやし等の芽とり等の下ごしらえ、食後の作業(食器拭き)等残された能力と意欲に応じ、楽しみ、喜びを触発しながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り水分不足が起こらないよう各ユニットから食事委員を選出し利用者一人一人が暮らしの全体を通じて必要適切な食事や水分がとれるよう主治医と相談の上、栄養補助飲料を併用し援助している方やカロリー制限がある方はカロリーを考慮した提供を行い、一人一人の状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を最大限に活かしながら又、体調を考慮しながら毎食後うがいのみの方、歯ブラシを手渡しする方、全介助の方、義歯洗浄剤を食べられてしまう危険性のある方は義歯をお預かりし義歯洗浄を代行、どのような支援をしないと危険が伴わずに口腔内の清潔が維持できるかをアセスメントしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄やおむつをしないで暮らすは生きる意欲や自身の回復、そして食や睡眠等の身体機能の向上につながると理解し最初からトイレで出来ない決め付け可能な限りトイレで用を足し気持ちよく排泄する工夫をアセスメント等で試行錯誤し、現在全員トイレにて排泄している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立時には食物繊維の多い食材の使用を心がけている。また排便確認をプライバシーに考慮しつつ行い記録し定期的に排便確認している。又、便秘がちな高齢者に対し個々の便秘の原因をさぐり薬剤に頼る前に食物繊維を豊富に含んだ食材の工夫をしメニューに便秘予防の為に野菜や果物、海藻などを、繊維質の多い卵の花や煮豆、ハチミツ等、糖質で便を柔らかくするよう個々の必要性に応じて食事委員を筆頭に工夫し水分補給にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は定めておらず毎日入浴可能であるが時間は職員のローテーション等の都合で定めている。一人一人の体調、気分、希望に添い(入浴を好まれる方にはより楽しく入浴できるよう工夫し、入浴を好まない方には好まない根拠を探りながら入浴が嫌いなのか？着脱が面倒なのか？声掛けの工夫次第で気分良く入浴する気持ちになってくれるのか必要に応じて立案しながら無理強いはせず楽しめる様、リラックスでき心身の疲労が取れる様に、又は納得できるよう取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の流れの中で一人一人が自然に必要な休息や睡眠が取れるよう支援している。本人にとって自然なリズムが生まれるよう環境や生活の過ごし方、関わる側のあり方が本人のリズムを壊していないか確認しながら寝ることだけに注目せず本人の生活習慣や体調、持病等を関係者で検討しながら総合的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導をうけて薬剤についての知識等について2週間に1回相談をおこなっている。また内服変更時はその詳細について記録し変化がないか期間を区切って評価相談している。内服方法もフラットを使用したり薬はいは使用したりと一人ひとりに合わせた方法をとっている。又、服薬方法の検討を重ね統一した援助を根拠もって出来る様に都度、書式化しキッチンに掲示し取り組んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴等充分に把握し、日々の暮らしのが楽しみや張り合いのあるものになるよう、また潜在している記憶やできる力を最大限に活かして自分らしく暮らせるよう一人一人にあった役割を担い気持ちよく共に支えあっている事を実感できる支援に取り組むよう心がけている。又、嗜好品については利用者が自宅にいる時と同様に趣向品を楽しめるよう様、コーヒーが好きな利用者には希望時に状況に合わせて(夜間はカフェインによる不眠を懸念し提供していない)コーヒーを用意したり一人一人の好みや意向を大切にすると共に、それを好まない周囲の利用者への配慮や本人との調整をも支援しようと思掛け本人の希望がある時は可能な限り支援している。		

グループホーム 白ゆり青葉(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年、一緒に歩いていけるお店があったが閉店してしまい、徒歩での買い物場がなくなってしまい、日常的な活動としては不十分であるが行事企画を通し行き先を相談したりバーベキュー行事等では、ご家族も一緒に参加し楽しんでいただいている。今後、日常的な買い物のお機を会をえるように車を活用しスーパーへ行く機会を増やしていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常の暮らしの中で、その人の希望や力に応じてお金を所持し使えるよう支援している。使わなくても自分で所持できる事で安心してたり、ちょっとした買い物や行事等で楽しめている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の有する力に応じて外部との交流を単なる取次ぎだけではなくプライバシーに配慮しながら個別に支援をしている。ある利用者は毎月ハガキをだし交流を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人の感覚や価値観を大切にしながら色、光、陰、広がり、音、におい、空気の流れなどに配慮をし認知症の方々にとってストレスとなる刺激に注意しながら居心地のよさ、心身の活力を引き出すために旬の食材を献立に取り入れたり、フロアの模様替えや月ごとにほほえみ(広報誌)の張り替えを行ったり歴を掲載し、季節感が感じられる様支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が集まれる食卓、2・3人で過ごせれる和室で、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く安心して過ごして頂ける様、入居時に使い慣れ親しんだ物を持ち込むよう本人や家族と相談し仏壇やたんす小物等、を持ち込んで頂いている。又その管理も支援し、居心地の良い居室になる様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	失敗させないケアを目指し「出来る事、出来ない事」「判ること、判らない事」をセンター方式を用いてアセスメントし、各居室にネームプレートや写真を使用したり、食卓テーブルには名前シールを貼り判り易くしている。失敗を阻止できなかった場合はダメージが最小限に留められる様に支援している。又、一人一人の身体機能の状態に合わせた危険防止の為、手すりの工夫や段差部分の工事を行っている。又、食卓の位置など生活の場として、どここの位置だと自立できるかなどを考慮して決めている。浴室では各利用者のニーズ別に安心して入浴出来る様、補助具を使用し、安全かつできるだけ自立した生活が送れる様に支援している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501720		
法人名	株式会社メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム白ゆり青葉		
所在地	札幌市厚別区青葉町6丁目1-29		
自己評価作成日	平成22年7月16日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3丁目では、入居者様主体の歌謡曲の会を継続している。スタッフはあくまでサポート役として参加し、運営方法や役割分担も入居者様と相談のうえ参加者に合わせ都度得意な曲を選曲して行っている。そのつながり、関わりから、生活の中でも、入居者同士で元気がない様子を見ると、そばに行き得意な歌を唄ったり曲を流したりと、いたわり、励まし合いの姿が日常的に見られている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigyoshoBasicPub.do">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigyoshoBasicPub.do</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見交換、運営推進会議、家族アンケート、地域会議、外部評価等からのアドバイスを参考にしながら、理念を振り返る機会を作っている。朝礼やユニットの申し送り等で復唱し理念とその日の実践が繋がるよう取り組んでいる。ホームの理念は入社研修で各自説明を受けている。今後も理念をかけただけで終わらないよう実際に活かされてこそ意味があるものと管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合い、実践が理念にもとづいたものになるよう日常的に取り組んでいく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板や案内、また町内の会合に出席することで情報交換を行っている。町内会の行事、地域の事業所の行事や盆踊り等へ毎年参加することで、交流の機会になっている。また近郊在住の職員採用が多く、職員の繋がりから増えた地域交流もある。小学校運動会見学、地域のいきいきサロンと児童会館合同「流しそめん」への参加や森の音楽会、お花見、町内の花植え、児童の権真空手演舞訪問等、地域との社会参加の機会が増えている。となりのマンションの方々が草取り手伝って下さる中で交流が持てた。こうした一つ一つの関わりを大事にこれからも繋げ進めていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の支援を第一に考えつつ、取り組みとして、厚別区社会福祉協議会主催の青葉地区住民に向けた「認知症対応講座」に劇団員や講師として、地域で認知症の方がより住みやすくなる為の対応の仕方、認知症の方の想い、グループホームも相談窓口であること等をお伝えする機会をいただいている。今後も地域の他事業所や地域の方と情報交換、連携を図っていき、ホームからアナウンスして積極的に取り組んでいきたい。地域住民からの相談や問い合わせ増えている。職員に通りに聞くこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開くよう努めているがホームの状況から難しい月もあった。2ヶ月に1回開催行えるよう努めていく。去年から、町内会長から、福祉部長や地域包括の職員さんも多数が参加していただいている。また経営者が出席できない時は報告し、出た意見を伝達し運営に役立てている。職員の意見も会議で言えるよう、できる限りソフト調整し参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が主体となって、札幌市、区担当者、区保健師さん、社会福祉協議会等と電話や行き来して、随時相談、情報交換し、向上に取り組んでいる。生活保護受給者の方は区の担当者と連絡を取り合い連携を図っている。また、実施指導を通して、センター方式やケアプランを見てもらっている。区の生活保護課担当者との連絡の中で疎遠になっていた入居者様のご家族と連絡が取れるようになった例もあり、今後も連携を密にしていきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会で「身体拘束」について勉強会を開き、理解を深め、「絶対に行ってはならないこと」「介護者都合にしないこと」「言葉による拘束」等、又管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しており学んだ事を会議にて報告している。職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、拘束することでどのような弊害があるのか、事例やニュース等を材料に管理者から職員へ情報を伝えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会で「高齢者虐待防止関連法」について勉強会を開き、理解を深め職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、ニュース等を材料に管理者や主任からその都度職員へ情報を伝えたり、職員のストレスについても抱え込まない、職場の雰囲気作り、組織作りに努めている。管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しその都度伝達講習をしている。本人の主体性を生かしたケアに取り組んでいるが、「言葉による拘束」や「不適切なケア」について深く勉強する機会を今後も作っていく。		

グループホーム 白ゆり青葉(3丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は職員が学ぶ必要性を感じ全体会議で学ぶ機会を作り、制度について事例と現入居者で利用の可能性があるケースを伝達したり、職員が閲覧できるように、情報を各ユニットに設置している。また、必要時には制度が利用できるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談から入居準備、入居の流れの中で、また、契約時は読みあわせを行い具体的な説明をしている。その流れの中では理解しきれていないことも多いので、入居後も入居者様の変化やその場にあわせて適宜説明し、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して利用者が直接あわせる会議等は設けていないが、生活の中で、それらに関わる話題、要望等を聞き取りしたり、意見、不満が出た際も迅速に対応できる体制を整えている。事務所が開放されて、入居者が自由に入居できるようになっていることや普段の関わりから、希望、不満、意見を表せている。経営側がホームに足を運び入居者の暮らしぶりや職員の雰囲気をごまめに見ていっている。家族に対しては管理者、主任が主に窓口となっている。運営推進会議の場や面会、又は必要に応じて適宜連絡し、疑問や意見、不満等がないか汲み取り運営につなげている。また苦情になる前に対応するよう普段の関わりに配慮して、信頼関係作りに取り組んでいる。玄関に意見箱を設置。管理者やホームからアンケートを行いその結果を経営者、ご家族、職員にデータを報告している。今後も運営推進会議に参加したことのない家族に呼びかけたり、どうしたら、ご家族が意見しやすいか意見交換していく。普段の関わりを大切に相談、意見しやすい関係作りを努める。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には定期的及び適宜(主任や管理者の判断で)面談を行っている。運営者は職場環境の重要性を理解しており、働く職員の意欲の向上や質の確保のため、事業所の運営や大事な決定事項や社会情勢などを伝え、全体会議や日頃のかかりから主任や職員からの意見を聞く機会を設けるようにしている。職員からの意見は欠かせない。意見しやすい職場環境も大切と経営者、管理者、主任は取り組んでおり、ホームの経験、状況、職員の資質に合わせて、話し合いながらよい職場作りを経営者が声を上げて進めている。日頃現場で挙がった意見は、主任が管理者に報告している。意見が反映可能かどうかを見極め、運営に役立てている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はその時のホームの状況等に合わせた話を、全体会議でしている。また、資格手当等の整備、資格取得のために勤務調整や勉強会の開催、介護に関わる社会情勢等の情報を提供する等、段階的にスキルアップできるように慎重かつ臨機応変に体制を整え、働く職員を支援している。又、経営側がホームへ足を運び職員や入居者様へ話しかけ客観的に見て運営に役立っている。経営者がホームの行事にも参加し、入居者様一人ひとりに「感謝状」を送る役割で参加することで、入居者様にも喜ばれている。管理者、主任は日頃から職員に話しかけたり、委員会や会議の場でも意見しやすい環境作りを配慮している。職員の親睦会や職員同士で贈り合う「サンクスカード」を推奨し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は地域密着型サービスの従業者として職員の要望を取り入れて社内研修を推奨し、事業所ごとあるいは合同研修等を織り交ぜ、研修計画を立て行っている。入社から年数、段階に応じた社内研修のカリキュラムを設定し、機会を作っている。また、新人職員へのOJT、OFF-JTに参加する機会を作っている。他の厚別区のGHと協働しての研修等も取り入れている。また、日頃から視点を養うためにセンター方式を使用したり、フロア会議等で専門的な知識が得られるよう、チーム、職員に合わせてアドバイスをしている。経験、状況、職員の資質に合わせ、より良い職場作りで代表者、管理者、主任一体となって組織的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修・外部研修・厚別区GH合同研修等で意見交換、一緒に学ぶ機会を作っている。地域(青葉地区)の交流の機会として、近隣事業所の花見行事に参加させていただいたり、地域で行う認知症を学ぶ講座等に参加させていただき、研修に相互お誘いする等少しずつ地域に認識されると感じる。これからも協同して地域サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

グループホーム 白ゆり青葉(3丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1年間新入居はないが、ホーム生活の予測できる範囲での対策や具体的課題(お互いの信頼関係作り、役割作りなど)を見つけ新しい生活の中でご本人らしさが構築できるように考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	フローで1年間新入居はないが、相談以降も入居前までの間連絡を細かにとり、不安や思いの傾聴、ホーム生活の様子を少しでも想像できるように、理解に努めたいと考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フローでは1年間新入居はないが、初期対応時には本人のみならず、家族・ケアマネージャーや相談員との面会や電話・書面にて情報交換して対応をしていきたいと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体・個別でのリハビリや創作活動の協力、得意なことから学び支えあいの関係を築いている。また、センター方式D-5振り返りシートをプラン評価月に全員で記入、振り返っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回便りで生活の様子や検査受診結果、ケア変更なども各担当スタッフが報告、適宜電話連絡し情報共有している。またホーム行事や個別外出にお誘いし、面会時と一緒に撮影した写真を居室に貼ったりと絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも事務所から必要時電話をかけている。また馴染みの名前・土地名やご家族からの手紙や昔の写真、交換日記等で情報を頂き日常会話で話題にし、関係や想いが継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌会では参加者個々の得意・好みに合わせた都度選曲をしたり、日常的にも体調を気遣ったり支えあいの言葉が多く、少人数でもお茶会をしたり、他館へ届け物訪問したりとホーム内でも関わり支援に努めている。		

グループホーム 白ゆり青葉(3丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した場合には、職員交替でお見舞いに行き、ホームで千羽鶴を折って回復を願う等関わりを持っている。契約終了後に、ホーム思い出アルバムを作ってお渡しする等面会も継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して	日常の会話・表情・行動から要望や想いの汲み取りを行い記録に残し、申し送り時、定期的なモニタリング・評価会議で取り上げ検討。困難な場合もご家族を含め実現へ向けて努力する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	年1回センター方式更新を実施。会話や面会等で得た情報や変更を追記ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録・温度版の用紙を作成、グラフやセンター方式D-4シートも適宜使用し、1日の過ごし方や気分等が把握できるよう工夫。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で各担当職員が介護経過、モニタリングを発表、新しい発見や意見・アイデアは直ぐに実施しその後の立案へ反映している。心身状況の変化時は適宜短期間で評価、立案実施。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙はプラン変更時、必要に応じ実践状況が明確になるよう書式変更。本人の発言・言葉を多く記録。備考欄は気づき等の記載、立案に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、意向は常に変化すると念頭に置き、家族の周辺状況も踏まえ、暮らしを守るため、相談や柔軟なケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署員や地域少年消防クラブの児童会館の仮装訪問や小学校運動会の見学、子供極真空披露会、地域歌ボランティア等様々な機関と協力が増えた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は希望に併せ選択可能。協力医療機関の聖陵ホスピタル往診は、居室を周り生活の様子も把握。親切丁寧で信頼関係が出来ている。受診や検査時の対応も相談に応じている。		

グループホーム 白ゆり青葉(3丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師の勤務時間が増え、入居者と深い関わりや生活の様子も観察できる。受診対応等も可能、細かな相談や情報交換で連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員で面会し看護師から情報を得て職員間共有している。家族に同意頂き、ムテラに同席、家族、病院、ホームの方向性を合わせ、退院に向けた取り組みを個別に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況にあわせ、往診時の家族同席で、状況説明を一緒にうけたり、話し合いで入居者、ご家族の意向、想定できる可能な限りの介護、関係医療機関との連携を相互に確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内や厚別区GHで協同で救命救急講習会を実施。事故発生時のシミュレーションや緊急時対応等、定期的な研修で繰り返し確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一人一人の利用者の状態を踏まえた防災避難訓練(夜間想定)年2回行っている。又、職員だけの誘導の限界を踏まえて地域の人々の協力を得られるよう地域防災会議参加し、地域の方から協力を得られるよう進めている。又、事故対策委員が予防と発生でのフローチャートを作成し全職員に周知している。地震想定訓練、SAT119・災害用の備蓄用意。事例から全体会議や運営推進会議で考える機会設けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『誇りを持って私らしく』理念を念頭に個々に合わせた言葉で会話、申し送り・記録等プライバシーに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で細かに相談を多く自己決定をプランにも立案。内容に合わせて表出しやすい環境作りから配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間から入居者各々の時間で暮している。必要に応じ業務変更し希望に添える環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室は2箇所あり、要望にあわせている。ご本人らしさ、衣類やお洒落をプランにも立案、意識的な会話をしている。		

グループホーム 白ゆり青葉(3丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立の話題等会話で意欲に働きかけている。食後片づけ等協力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病によって油脂を控えたり、体調・摂取量・要望に応じ献立を相談し個別メニューの提供、補食水は家族の協力も頂き個別でタイミングに添った提供を大事にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを	誤嚥、むせ込がある入居者は毎食後に居室での口腔ケアの徹底、介助が必要な場合は起床、入床時に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄表を盛り込み記入、事前排泄時間から個々1日の排泄リズムに合わせた声掛け誘導、適した排泄環境・衣類等へ取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食物繊維の多い食材摂取、マッサージ、軽体操等、個々に支援している。温度板に排泄回数と下剤調整量、頓服時の下剤使用等記入しケアに生かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前相談で入浴や時間を決めている。直前で気分が変わる時は、次回の入浴を相談し約束。希望時間によって業務も変更して対応、快適な入浴の時間の提供に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援	居室・和室ソファ等一番安心出来る場所で休息がとれる。夕方から夜の環境へ、声のトーン等関わり方変えケアや雰囲気から夜を感じ安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服方法を一覧として作成、定期的に見直している。薬の説明書を担当職員が個人ファイル保管し確認できる。変更時は記録、経過を細かく観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者主催の歌会を毎週日曜に参加者に合わせ各々の得意曲や思い出曲を選曲、準備から運営を相談してサポート。入居者の企画でお楽しみ会を開くこともある。		

グループホーム 白ゆり青葉(3丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援	外気浴やプランターのお花を見学、野菜を育てたり、他階へ訪問したりと思いや状況に合わせて実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	プランで財布を必ず身につける支援をしている方もいる。買い物は、日時を相談し実施。自己管理されていない方は、行事やお祭り等で一緒に支払を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時、ホームの電話を使用している。家族からの手紙は居室に貼り何度も読み返せるようにしている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りをしたり、食事中TVを消しBGM、TV番組内容、事故ニュースは不快な音が生活や精神面に影響しないよう、細かな配慮を実施。光は窓からの日差しに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は共有のテーブル。和室はソファーで仕切って、休息や団欒等くつろぎの空間。台所にも席を用意し各々落ち着ける場所や時間を、安全面に注意支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や家具などを置き使用。ご家族の写真・絵・手紙などを掲示し眺んだり、見たりすることができるようにしている。片付けが必要な時はご本人と一緒に相談して実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等に表れ、トイレ迄曲がり角や目線に目印。椅子は個々にあったクッションや慣れた家具を使用、症状や活動に合わせた別椅子の使用を支援し安全工夫。		